

2015年度個人特別研究費 研究成果概要

所属・職・氏名： 商学部・教授・伊藤秀和
研究課題： 港湾貨物流動と地域経済構造
研究期間： 2015年4月1日～2016年3月31日

研究成果概要（2,000字程度）

科研費申請課題では、港湾貨物取扱と背後圏たる地域経済構造との関係性に関する実証研究を行ってきた。例えば、先進国を対象に北米・欧州・日本での比較分析 (*Papers in Regional Science*, 2015) や先進国のみならず新興国・後進開発国など世界41か国・360地域（世界貨物取扱量の89.7%）を対象としたグローバル分析 (*Journal of Economics Geography*, 2015) があり、コンテナ化が進展した現在でも、港湾貨物取扱とその背後圏経済構造との有意な類似性を国・地域を超えて確認した。

しかし、これまでの実証研究は港湾物流（陸側、ノード）のみを対象とし、海上貨物輸送（海側、リンク）、すなわち港湾間のネットワークはデータ制約から分析対象としなかった。本年度は、Lloyd'sデータを用いて、貨物別の海上貨物輸送や貿易相手地域の経済構造をも考慮したクロスセクション分析を行った。例えば、TPP参加により貿易拡大が期待される環太平洋地域のみを対象とした実証分析（2008年データ）を行い、港湾都市の類型化・クラスターとそのグローバル・ネットワークを定量的に明らかにした。

今年度の主な研究成果は、以下である。

【分担執筆】

(1) Cesar Ducruet and Hidekazu Itoh, “The mutual specialization of regions connected by multiple commodity flows in a maritime network,” in *Maritime Networks: Spatial Structures and Time Dynamics*, edited by César Ducruet, Routledge, Part IV, Chapter 16, October 2015, pp.285-301.

【査読付き学術論文】

(1) David Guerrero and Hidekazu Itoh, “Ports, regions and manufacturing systems: The case of Japan,” *Journal of Case Studies on Transport Policy*. (forthcoming) （その他1本）

【査読付き国際学会報告論文】

(1) Hidekazu Itoh and David Guerrero, “The role of ports in Japanese economic connectivity,” the Conference Proceedings of 2015 International Association of Maritime Economists (IAME2015), 2015 August 24-26, Kuala Lumpur, Malaysia, pp.1-22.

【国際シンポジウム（報告予定）】

(1) César Ducruet, Claudio Ferrari, Hidekazu Itoh, Alessio Tei, “The local determinants of interregional maritime flows: a comparison between Europe and Asia,” 2nd International Workshop on Maritime Flows & Networks (WIMAKS'16), 2016 April 25-27, Paris, France.

研究成果概要は、データで gakunai@kwansei.ac.jp まで提出してください。